

暴瀉病我國流行の最初故醫師初め病症譯り難し、且流言を醸せし者ありて、ますく奔馬に鞭打が如く、虚説盛なりと雖、ども後日暴瀉病彌流行、是が爲に江戸死亡火二萬八千餘人に及ぶ此時に至り、醫師熟考すれば、先の譯り難き病症は則暴瀉なりと、

〔頃痢流行記〕八月○安政五年朔日より晦日まで、日々書上に相成候死人の員數、

朔日 百十二人 二日 百七人 三日 百五十五人 四日 百七十二人 五日 二百七人 六日 三百五十人 七日 四百六人 八日 四百十五人 九日 五百六十五人 十日 五百五十九人 十一日 五百七人 十二日 五百七十九人 十三日 六百二十六人 十四日 五百八十八人 十五日 五百八人 十六日 六百二十二 十七日 六百八十一人 十八日 五百六十一人 十九日 五百九十七人 二十日 四百六十九人 二十一日 三百九十二人 二十二日 三百六十三人 二十三日 三百七十人 二十四日 三百七十九人 二十五日 四百十四人 二十六日 三百九十七人 二十七日 四百十六人 二十八日 四百三十五人 二十九日 四百四十七人 晦日 三百三十三人

ノ一万貳千四百九十貳人 程有之候由

此分全書上、此外に、人別なしの者數一万八千七百三十七人、

九月に至りては大きに減じ、三四日頃は五六十人に相成、夫よりははたと相止、通例に相成申候、

或院主の談話に曰く、八月一ヶ月に送禮數凡一ヶ年分も來りし故、平日は飯焚門番老爺、又門前の無業人を雇ひ、大概世話敷成たりとも、事欠ことはなかりしが、此度は石工定日雇も皆々懸りて間に合かね、井戸堀職人を頼みたるにて、漸く安堵をなしたりとなん、

〔頃痢流行記〕流行時疫 異國名 コレラ